

心身共にたくましく、自ら学ぶ、心豊かな子どもの育成



# 茅小だより 7月号

令和5年6月30日（金）

茅ヶ崎市立茅ヶ崎小学校  
校長 吉野 利彦

## 子どもの成長の可能性を 信じ抜くこと

梅雨の晴れ間にのぞく青空が目まぶしく、本格的な夏が近づいているのを感じる今日この頃ですが、保護者や地域の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、6月4日（日）に行った運動会は、台風の影響で一日遅れの開催となりました。今年は、観覧者の人数制限を行う必要がなくなったため、多くの保護者やご家族、来賓や地域の方々に、子どもたちの輝く姿をご覧いただくことができました。子どもたちもたくさんの方々に自分たちの全力の演技や競技を見てもらうことができ、とても喜んでおりました。

今年の運動会のスローガンは、『さあバトンは繋がれた！限界突破で歴史を超えろ！全員輝き走り抜け！』で、練習は、ゴールデンウィークが明けてから4週間に渡って行いました。どの学年も、学年全員で創り上げるダンスに力を注いでいました。当たり前のことですが、練習は順風満帆で進んだわけではありませんでした。集中力が欠け注意を受ける場面もありました。思うように踊れず練習意欲が低下する子どももいました。

そうした状況の中、学年の教職員は、子どもたちの成長の可能性を信じて、指導を続けていきました。すると、子どもたちの心に変化が現れてきました。自分たちならもっとできるという自信が芽生え、困っている友だちを親身になってサポートする子どもや、自主的に練習する子どもが増えていったのです。そして、「もっと姿勢を低くしよう」、「動きを止めるところはピタッと止まろう」、「移動のときは素早く列をそろえよう」など、より完成度の高いダンスを創り上げていこうとする意識が日ごとに高まっていきました。私たち教職員は、そうした子どもたちの努力や成長の過程を目の当たりにしてきたので、当日、子どもたちが学年の仲間と心をつなげて、圧巻の演技を見せてくれたときは、感極まるものがありました。ご観覧いただいた方々にも、1年生から6年生までの全校児童822名の熱い思いをしっかりと届けることができたと思っております。



6年生の「ソーラン節」